

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2020/21年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ロシアで上方修正も、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

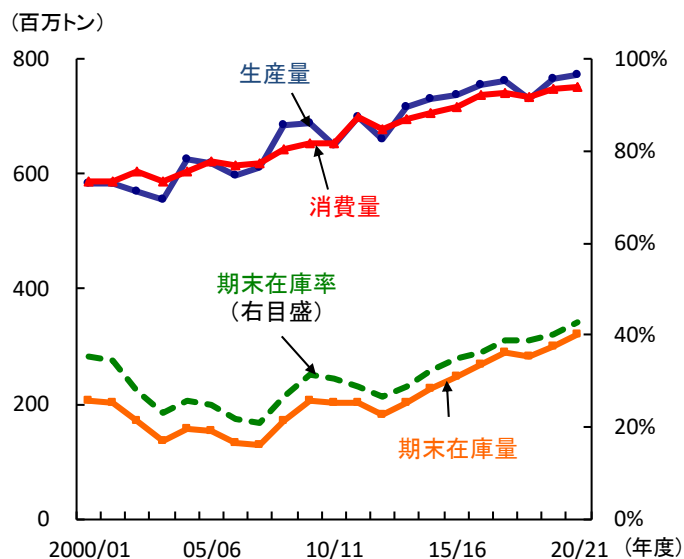
消費量 前年度比 前月比

- ・中国、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・アルゼンチンで下方修正も、ロシア、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2020.11.10)をもとに農林水産省で作成

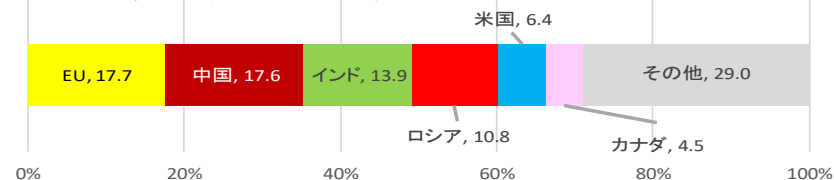
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

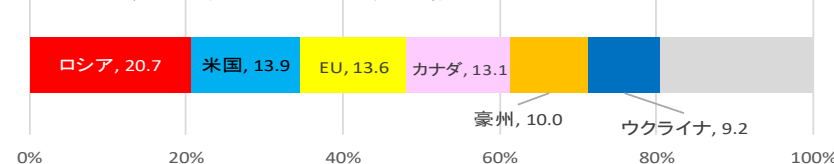
年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	730.9	764.9	772.4	▲ 0.7	1.0
消費量	734.8	748.3	752.7	1.7	0.6
うち飼料用	139.2	139.1	137.1	2.5	▲ 1.4
輸出量	173.7	191.8	190.8	0.9	▲ 0.5
輸入量	171.1	185.3	187.6	1.4	1.3
期末在庫量	284.1	300.8	320.5	▲ 1.0	6.5
期末在庫率	38.7%	40.2%	42.6%	▲ 0.2	2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 November 2020)

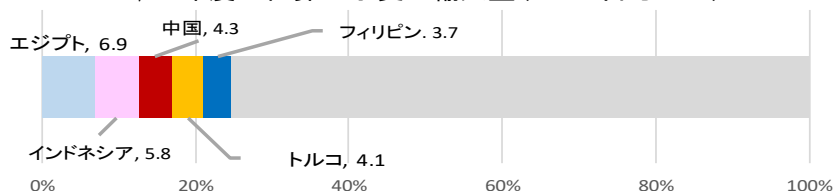
○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(772.4百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(190.8百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(187.6百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の冬小麦、春小麦の収穫は9月に終了した。

生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.5%減の49.7百万トンの見込み。冬小麦は対前年度比11.1%減の31.9百万トン、春小麦は同4.4%増の15.9百万トン、デュラム小麦は同じく27.5%増の1.9百万トンの見込み。

また、2021/22年度の冬小麦は、乾燥天候の中、作付けがほぼ終了し、発芽が進展している。USDA「Crop Progress」(2020.11.16)によれば、発芽進捗率は、85%と前年度の82%、5年平均の84%を上回っている。

なお、10月以降のラニーニャの発生により、冬にかけて平年より乾燥した天候が冬小麦の主要産地で続く見通し。

2020/21年度の消費量については、6月までの新型コロナウイルスの影響による食用需要の減少の反動から、7月以降、増加に転じたことにより、前月予測より0.2百万トン上方修正され、対前年度比0.3%増の30.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく26.5百万トンの見込み。また、2020年10月の輸出先国は、日本(14.9%)、中国(10.3%)、メキシコ(9.9%)、フィリピン(9.9%)の順で、特に中国向けが伸びている。

USDA「Grain World Market and Trade」(2020.11.10)によれば、米国の小麦輸出価格は、米国の冬小麦主産地での乾燥天候の影響を受けたことや、これに伴う投機買いによる小麦先物相場での価格上昇から9月から3ヵ月連続で上昇している。

10月6日時点と比べた11月6日時点の主な品種別の価格は、ハード・レッド・ウィンター(HRW)が中国向けの強い輸出需要等から8ドルトン上昇の276ドルトン、ソフト・ホワイト・ウィンター(SWW)が早い輸出ペースが続いていること等から17ドルトン上昇の265ドルトンとなっている。

小麦—米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割) (単位:百万トン)

年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	30.7	0.2	0.3
うち飼料用	2.4	2.8	2.7	-	▲ 1.4
輸出量	25.5	26.3	26.5	-	1.0
輸入量	3.7	2.9	3.4	-	18.9
期末在庫量	29.4	28.0	23.9	▲ 0.2	▲ 14.7
期末在庫率	53.0%	49.2%	41.7%	▲ 0.4	▲ 7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)

図 米国産小麦の品種別輸出価格の推移(FOB)



資料: USDA「Grain:World Markets and Trade」(2020.11.10)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

2020年10月			2020年1月～10月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
日本	26.4	14.9	フィリピン	276.8	12.6
中国	18.3	10.3	メキシコ	242.3	11.0
メキシコ	17.6	9.9	日本	229.0	10.4
フィリピン	17.5	9.9	中国	158.3	7.2
ナイジェリア	15.5	8.7	ナイジェリア	131.5	6.0
その他	82.0	46.2	その他	1,166.5	52.9
合計	177.4	100.0	合計	2,204.4	100.0

注1. 10月の輸出検証高は、10月8、15、22、29日及び11月5日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2020年1月2日～11月5日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2020年11月10日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2020.11.20)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく34.1百万トンの見込み。単収と収穫面積の増加により、前年度より5.5%増加した。

種類別の生産量は、デュラム小麦、普通小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ6.1百万トン、28.0百万トン。デュラム小麦は単収の上昇と作付面積の増加により前年度より22%増加し、普通小麦は作付面積が減少したものの、単収の増加により2%増加した。

普通小麦のうち春小麦は前年度より3%減少し25.2百万トン、冬小麦は前年度より68%増加し2.8百万トンの見込み。

収穫は、デュラム小麦、普通小麦ともに終了。品質は、収穫期に天候に恵まれたため、前年度より良好である。

USDAによれば、2020/21年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比7.1%増の35.0百万トンと、2013/14年度以来の豊作となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.5%増の25.0百万トンの見込み。

AAFCによれば、輸出量は、デュラム小麦が史上最高の輸出量となった前年度よりわずかに減少し5.3百万トンとなるものの、中国向け輸出が伸びている普通小麦が19.5百万トンに増加するため、小麦全体では前年度(24.5百万トン)に比べ増加し、24.8百万トンとなる見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の9月の普通小麦の輸出量は161.6万トンで、国別では、中国(27.3万トン)、ナイジェリア(17.8万トン)、メキシコ(16.7万トン)の順。また、同月のデュラム小麦の輸出量は18.7万トンで、イタリア(7.8万トン)、ナイジェリア(2.6万トン)、ベネズエラ(2.2万トン)の順である。

小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.4	32.7	35.0 (34.1)	-	7.1
消費量	9.2	9.3	9.7 (8.7)	-	4.8
うち飼料用	4.2	4.2	4.5 (4.1)	-	8.2
輸出量	24.4	24.6	25.0 (24.8)	-	1.5
輸入量	0.5	0.7	0.5 (0.2)	-	▲ 33.8
期末在庫量	6.0	5.5	6.3 (6.3)	0.5	13.6
期末在庫率	18.0%	16.2%	18.0% (18.8%)	1.4	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	9.90 (9.88)	-	2.5
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.54 (3.46)	-	4.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 November 2020)

表 2020年9月のカナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)

	普通小麦			デュラム小麦		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	27.3	16.9	イタリア	7.8	41.7
2	ナイジェリア	17.8	11.0	ナイジェリア	2.6	13.9
3	メキシコ	16.7	10.3	ベネズエラ	2.2	11.8
4	インドネシア	15.0	9.3	ハイチ	1.5	8.0
5	バングラデシュ	13.9	8.6	フランス	1.2	6.4
6	その他	70.9	43.9	その他	3.4	18.2
計		161.6	100.0	計	18.7	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2 普通小麦の: 品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter
No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum 0
資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比87.5%増の28.5百万トンとなる見込み。

一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.9.8)では、2020/21年度の生産量は前年度に比べ90.6%増加し28.9百万トンと見込まれている(前回6月予測は26.7百万トン、5年平均は21.6百万トン)。

南東部では、11月に入り収穫が開始されたが、11月中旬の降雨によりわずかに収穫が遅れている。

一方で、WA州では、10月半ばに収穫が開始されたが、11月中旬の降雨により収穫が遅れ、品質に影響を与えた圃場もあるとみられる。

WA州の穀物関係団体(GIWA)(2020.11.13)によれば、同州の小麦生産量は、10月予測から0.5百万トン(6.8%)上方修正され、7.9百万トンの見込み。年間を通して降雨が少なく土壌水分が不十分であったが、予想よりも作柄は良好となっている。

また、品質は、現時点での判断は時期尚早であるが、多くの圃場で規格外の粒の割合は低くなると見られている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく19.0百万トンの見込み。生産量の増加から、前年度(9.5百万トン)に比べ倍増する見込み。

輸出価格は、米国、ロシア、ウクライナの小麦輸出価格の上昇とは逆に、11月6日時点で255ドル/トンと10月8日時点の261ドル/トンから下落した。

(※)NSW州：ニューサウスウェールズ州 WA州：ウエスタンオーストラリア州
QLD州：クイーンズランド州 SA州：サウスオーストラリア州

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

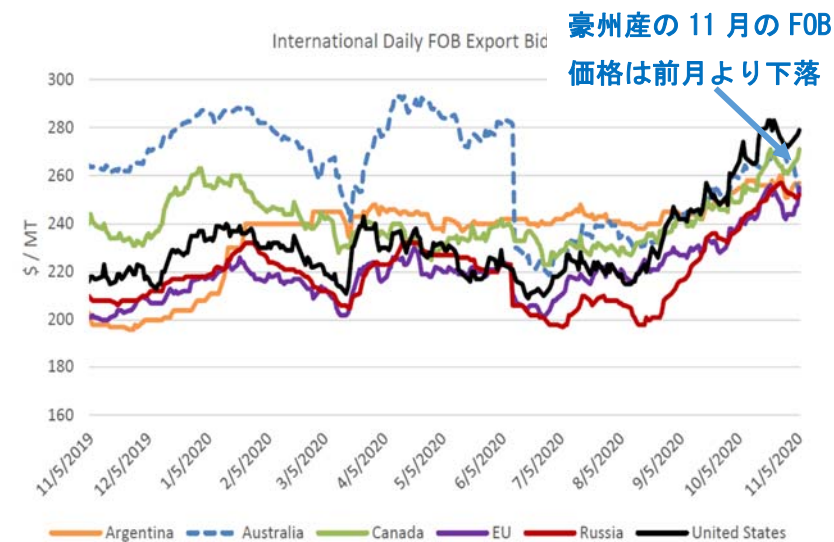
年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	17.6	15.2	28.5 (28.4)	-	87.5
消費量	9.2	8.4	7.5 (7.6)	-	▲10.7
うち飼料用	5.7	4.9	4.0 (4.0)	-	▲18.4
輸出量	9.0	9.5	19.0 (19.2)	-	100.0
輸入量	0.5	0.8	0.2 (0.3)	-	▲73.3
期末在庫量	5.4	3.5	5.7 (5.4)	-	63.0
期末在庫率	29.9%	19.5%	21.5% (20.3%)	-	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00 (13.0)	-	27.5
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.19 (2.19)	-	47.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC 「Grain Market Report」(29 October 2020)

図：主要小麦輸出国のFOB価格の推移



Source: IGC

出典：USDA 「Grain: World Markets and Trade」

*Note on FOB prices: Argentina- 12.0%, up river; Australia- average of APW; Fremantle, Newcastle, and Port Adelaide; Russia - Black Sea- milling; EU- France grade 1, Rouen; US- HRW 11.5% Gulf; Canada- CWRS (13.5%), Vancouver

< EU >

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2020.10.29)によれば、2020/21年度の生産量(EU27)は、前月予測から0.4百万トン上方修正され124.1百万トンの見込み。品種別には、普通小麦がフランス等で下方修正されたものの、ポーランド、ルーマニア、ドイツで上方修正されたことから、前月予測から0.4百万トン上方修正され116.8百万トン、デュラム小麦は、ルーマニア、フランスで下方修正されたことから、前月予測からわずかに下方修正され7.3百万トン。

フランスアグリメールによれば、10月31日現在、フランス産小麦の品質は、普通小麦の47%が「優良」(過去5年平均は30%)と過去5年平均を上回っている。また、デュラム小麦の平均タンパク質含有量は14.2%と良好。

なお、USDAによれば、2020/21年度の生産量(EU27+英国)は、収穫面積が上方修正されたものの、生育期の乾燥により単収が下方修正されたことから、前月予測より0.2百万トン下方修正され、対前年度比11.9%減の136.6百万トンの見込み。

USDAによれば、2021/22年度の小麦の生育状況は、ドイツ東部およびポーランド等において10月中旬～下旬にかけ降雨が継続したため、小麦の播種等に遅れが見られたものの、11月上旬に乾燥した気候となり、播種は進展した。欧州の大部分では、これまでの降雨により冬穀物の生育に十分な土壌水分量となっている。

フランスアグリメール(2020.11.9)によれば、フランスの普通小麦は栽培予定地域の88%で播種が完了し、播種の進捗状況は前年同時期(70%)を上回っている。また、苗立率は栽培地域の66%で、前年同時期(49%)を上回っている。デュラム小麦は栽培地域の53%で播種が完了し、前年同時期(20%)を上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、仏産小麦の対中国向け輸出増により前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、対前年度比32.3%減の26.0百万トンの見込み。

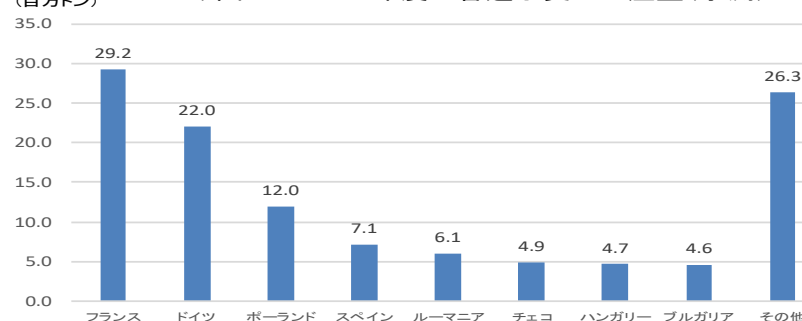
小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

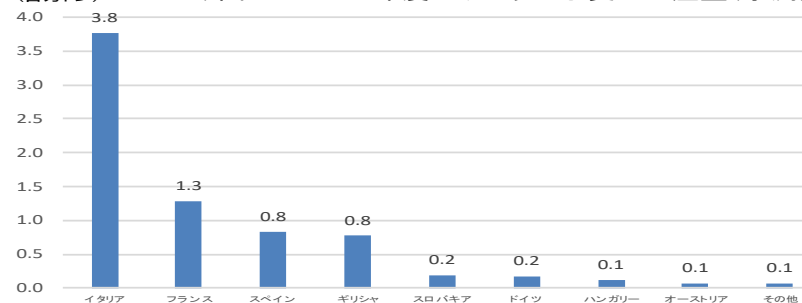
年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.6	155.0	136.6 (121.5)	▲ 0.2	▲ 11.9
消費量	121.1	122.5	118.0 (104.1)	0.5	▲ 3.7
うち飼料用	51.5	52.5	48.5 (39.9)	1.0	▲ 7.6
輸出量	23.3	38.4	26.0 (25.3)	0.5	▲ 32.3
輸入量	5.8	4.8	5.7 (7.0)	0.2	18.8
期末在庫量	15.9	14.8	13.0 (8.0)	▲ 1.1	▲ 11.9
期末在庫率	11.0%	9.2%	9.0% (6.2%)	▲ 0.8	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.52	26.12	24.66 (22.76)	0.02	▲ 5.6
単収(t/ha)	5.35	5.93	5.54 (5.34)	▲ 0.01	▲ 6.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(11 September 2020) 表内のデータはEU27+英国
IGC 「Grain Market Report」(29 October 2020) ()内はEU27ヶ国のデータ

(百万トン) EU27ヶ国の2020/21年度の普通小麦の生産量(予測)



(百万トン) EU27ヶ国の2020/21年度のデュラム小麦の生産量(予測)



資料: EU委員会「EU Crops Market Observatory」(2020.10.29)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】2020/21年度の冬及び春小麦の収穫は終了した。中国糧油情報センター(2020.11.4)によれば、2020/21年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.3%増の134.0百万トンの見込み。種類別には、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ126.6百万トン、7.4百万トンの見込み。

中国気象台によれば、2021/22年度の冬小麦の生育状況は、山西、河北、河南省等で播種から三葉期、甘肅、陝西省等で三葉期から分けつ期、四川、貴州省等で播種から出苗期、雲南省では三葉期に入っている。

また、全国冬小麦の一、二類苗(※)の比率は、それぞれ24%と76%であり、前年同期に比べ、一類苗の比率は前年並み(前年同期比24%)、二類苗の比率は2ポイント増加(同74%)となっている。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(10月)によれば、とうもろこしの価格が小麦を上回る地域ではとうもろこしの代替として小麦の飼料用需要が増加しており、国内の小麦価格は引き続き上昇している。

USDA「Wheat Outlook」(2020.11.10)によれば、飼料向け小麦の豊富な国家備蓄からの競売により、消費量が1.0百万トン上方修正され131.0百万トン、輸入量が0.5百万トン上方修正され、8.0百万トンの見込み。

中国海関統計(2020.10.25)によれば、2020年1月から9月の小麦の輸入量計は、前年同期に比べ2.8倍の585.8万トン。2020年の輸入先国はカナダ、フランス、豪州の順である。

2020年の輸入量を前年同期と比較すると、2019年は主にカナダから輸入(シェア:70.7%)していたが、2020年はフランス(シェア26.2%)、豪州(18.4%)に加え、米国(17.2%)からの輸入が増加している。

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

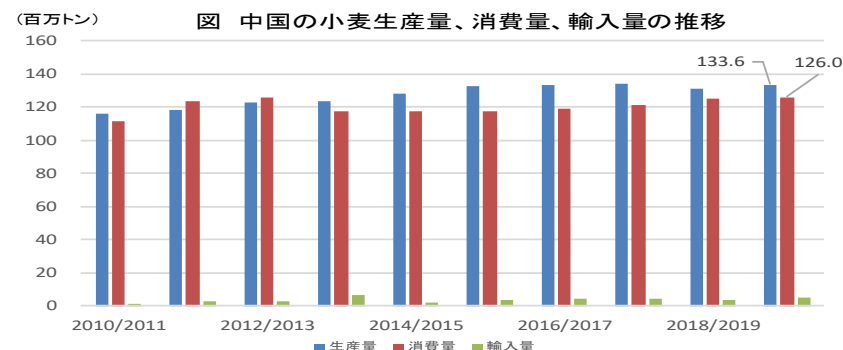
(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	136.0	(135.0)	-	1.8
消費量	125.0	126.0	131.0	(132.0)	1.0	4.0
うち飼料用	20.0	19.0	21.0	(21.0)	1.0	10.5
輸 出 量	1.0	1.1	1.0	(1.3)	-	▲ 4.8
輸 入 量	3.2	5.4	8.0	(7.4)	0.5	48.7
期末在庫量	139.8	151.7	163.7	(139.3)	▲ 0.5	7.9
期末在庫率	110.9%	119.4%	124.0%	(104.6%)	▲ 1.3	4.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	24.00	(23.8)	-	1.1
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.67	(5.40)	-	0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report」(29 October 2020)



資料: USDA「PS&D」(2020.11.10)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移(2019年1月~9月、2020年1月~9月)

	2019年1月~2019年9月			2020年1月~2020年9月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	カナダ	145.5	70.7	カナダ	172.0	29.4
2	カザフスタン	30.1	14.6	フランス	153.5	26.2
3	フランス	13.1	6.4	豪州	107.9	18.4
4	豪州	9.7	4.7	米国	100.8	17.2
5	米国	4.2	2.0	リトアニア	33.3	5.7
6	その他	3.2	1.5	その他	18.2	3.1
	計	205.8	100.0	計	585.8	100.0

出典: 中国海関統計(2020.10.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、11月13日時点での冬及び春小麦の収穫量(品質調整前)は87.90百万トン、収穫面積28.90百万ヘクタール、収穫進捗率99.8%、単収3.04トン/ヘクタールである。

USDAによれば、生産量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され、前年度比13.4%増の83.5百万トンで、冬小麦は収穫面積の引き上げにより0.5百万トン上方修正され58.5百万トン、春小麦は25.0百万トンの見込み。

ロシア国営「穀物品質評価センター」のサンプル調査によれば、10月26日時点で33.00百万トンの小麦の品質は、調査対象の77.7%が主に食用となる1~4等となった。前年同日(78.9%)を下回ったが、約1ヶ月前に比べると若干改善された。

ロシア農業省によれば、11月10日現在、2021/22年度の冬小麦を含む穀物の播種予定面積(19.18百万ヘクタール)の99.4%(19.06百万ヘクタール)で播種が終了した。

2020年10月は、ロシア・ヨーロッパ部では南連邦管区、北カフカス連邦管区で乾燥状態が続き土壌水分が不足し2021/22年度の小麦の発芽進捗率の低下等を生じさせたものの、他の管区等では概ね温暖で、土壌水分も適度に保たれ、発芽から分けつ期を迎えている。また、ウラル連邦管区等のロシア・アジア部では、第三葉期から分けつ期を迎え、作柄は概ね良好である。現地調査会社によると、中央連邦管区及び南連邦管区では、2020年10月下旬まで降雨不足となり、11月上旬の降雨で若干状況が改善されたものの、8~10月の水分不足の影響が残るとみている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月から0.5百万トン上方修正され、対前年度比14.5%増の39.5百万トン。2020年9月の輸出量は過去3年間の同時期に比べて最も多く、輸出先国は、トルコ(98.8万トン)、エジプト(86.9万トン)の順。

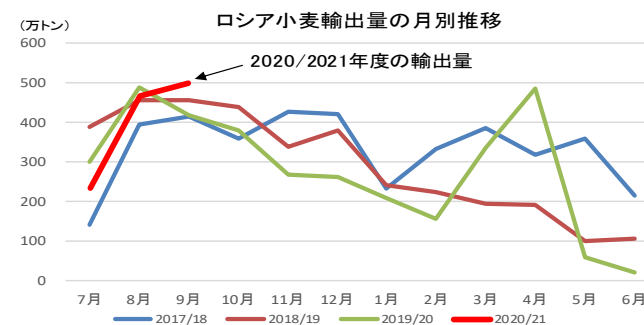
ロシア政府は、小麦を含む穀物の輸出規制に関して、現在、具体的な内容を検討している模様。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	71.7	73.6	83.5 (82.5)	0.5	13.4	
消費量	40.5	40.0	41.0 (42.4)	-	2.5	
うち飼料用	18.0	17.0	18.0 (18.5)	-	5.9	
輸出量	35.9	34.5	39.5 (38.9)	0.5	14.5	
輸入量	0.5	0.3	0.5 (0.3)	-	51.5	
期末在庫量	7.8	7.2	10.7 (10.5)	-	48.4	
期末在庫率	10.2%	9.7%	13.3% (12.9%)	▲0.1	3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.60 (28.3)	0.30	4.7	
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.92 (2.92)	▲0.01	8.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC 「Grain Market Report」(29 October 2020)



資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成(ユーラシア経済同盟加盟国への輸出も含む)

表 ロシアの小麦輸出先国(シェア)(2020年9月、2020年7月~2020年9月)

	2020年9月			2020年7月~2020年9月		
	国名	輸出量(万トン)	輸出シェア(%)	国名	輸出量(万トン)	輸出シェア(%)
1	トルコ	98.8	19.8	トルコ	228.8	19.1
2	エジプト	86.9	17.4	エジプト	190.3	15.9
3	フィリピン	40.8	8.2	バングラデシュ	102.0	8.5
4	バングラデシュ	40.1	8.0	アゼルバイジャン	60.2	5.0
5	アゼルバイジャン	22.6	4.5	ナイジェリア	53.3	4.5
6	その他	210.2	42.1	その他	563.5	47.0
計		499.4	100.0		1198.2	100.0

(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月
資料: ロシア税関統計(2020.11.13)をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・南アフリカ等で上方修正も、ウクライナ、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

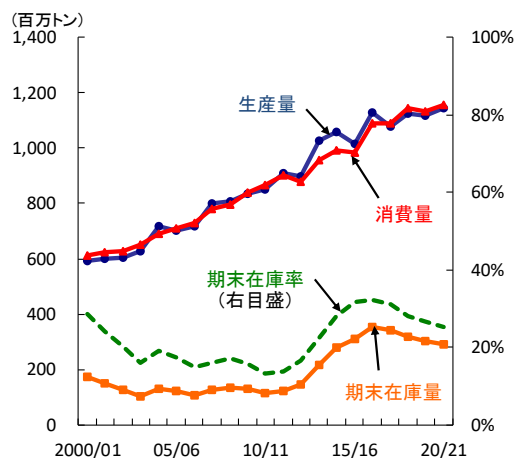
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国等で上方修正も、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ等で下方修正も、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.11.10）をもとに農林水産省にて作成

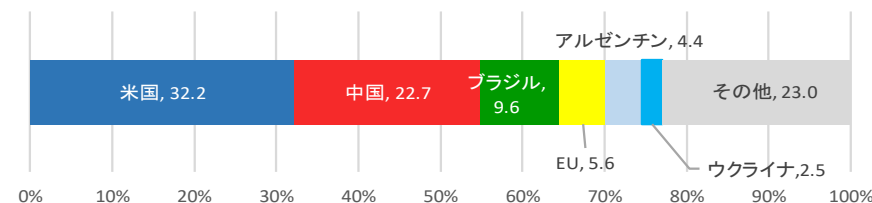
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

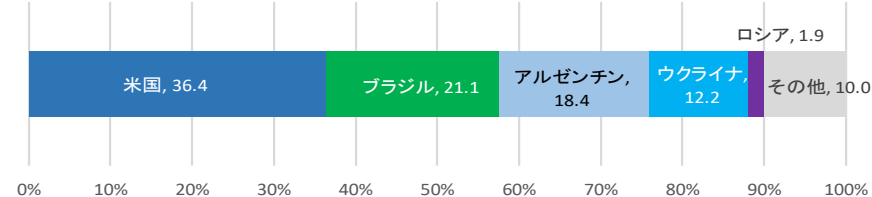
年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,123.4	1,116.2	1,144.6	▲ 14.2	2.5
消費量	1,144.3	1,132.7	1,156.5	▲ 6.1	2.1
うち飼料用	703.4	713.6	725.7	▲ 5.6	1.7
輸出量	181.7	171.0	184.8	0.3	8.0
輸入量	164.4	165.8	178.2	0.4	7.5
期末在庫量	319.8	303.3	291.4	▲ 9.0	▲ 3.9
期末在庫率	28.0%	26.8%	25.2%	▲ 0.6	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 November 2020)

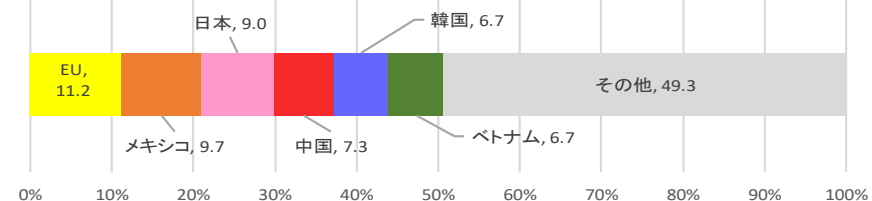
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,144.6百万トン)(単位:%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(184.8百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(178.2百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21年度の生産量は、アイオワ州、イリノイ州等多くの州での単収の下方修正により前月から5.5百万トン下方修正されたものの、前年度より6.5%増の368.5百万トンの見込み。「Crop Progress」(2020.11.16)によれば、収穫期の好天に恵まれ、11月15日現在で主要18州における収穫率は95%と収穫終盤となり、過去5年平均（87%）及び前年度同期（73%）より進んでいる。

【需要動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い飼料用消費が前月予測から1.9百万トン下方修正されたものの、前年度より0.5%増の309.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に下方修正されたことから、前月予測から8.3百万トン上方修正され、前年度より49.0%増の67.3百万トンと史上最高の見込み。なお、輸出検

証高(2020年1月2日～11月5日)は、41.4百万トンであり、内訳はメキシコ(11.7百万トン)、日本(9.1百万トン)、コロンビア(4.5百万トン)、中国(4.3百万トン)の順である。10月の輸出検証高では、計3.9百万トンのうち、中国が1.2百万トンと第1位の輸出先となっている。

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

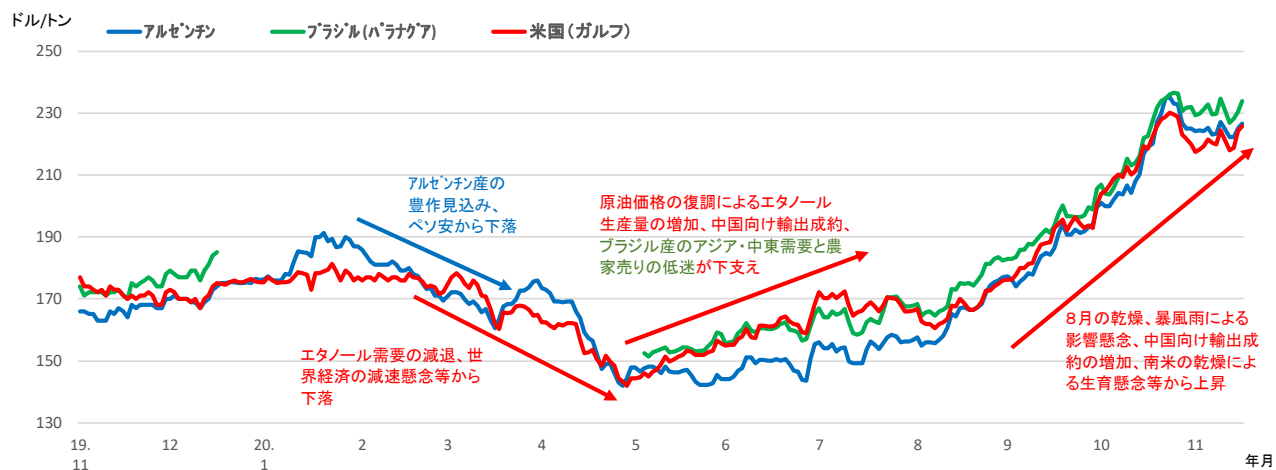
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	364.3	346.0	368.5	▲ 5.5	6.5
消費量	310.5	307.6	309.3	▲ 1.9	0.5
うち飼料用	137.9	148.0	144.8	▲ 1.9	▲ 2.2
エタノール用等	136.6	123.2	128.3	-	4.1
輸 出 量	52.5	45.2	67.3	8.3	49.0
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	50.7	43.2	▲ 11.8	▲ 14.7
期末在庫率	15.5%	14.4%	11.5%	▲ 3.4	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.40	-	1.5
単収(t/ha)	11.07	10.51	11.03	▲ 0.17	4.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.8%増の110.0百万トンとなり、史上最高の見込み。11月中旬にブラジル中部から南部、北東部にかけて降雨も、現在の夏とうもろこしの良好な生育見込みを支援するには更なる降雨が必要。パラナ州では、11月16日現在で夏とうもろこしの作付け進捗率は98%となっている。リオグランデドスル州では、11月19日現在で作付け進捗率は80%となっている。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2020.11.10)によれば、現在作付けされている2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積は前年度より減少するものの、単収が増加することから前年度比3.1%増の26.5百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は78.4百万トンが見込まれ、合計では前年度比2.3%増の104.9百万トンと史上最高の見込み。(P.20大豆-ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.4%増の70.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より14.7%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1~10月の累計輸出量は25.1百万トンで、収穫が例年より早かった前年度と比べ27%減となっている。内訳は、1位が日本で331万トン、2位がイランで317万トンとなっている。

とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

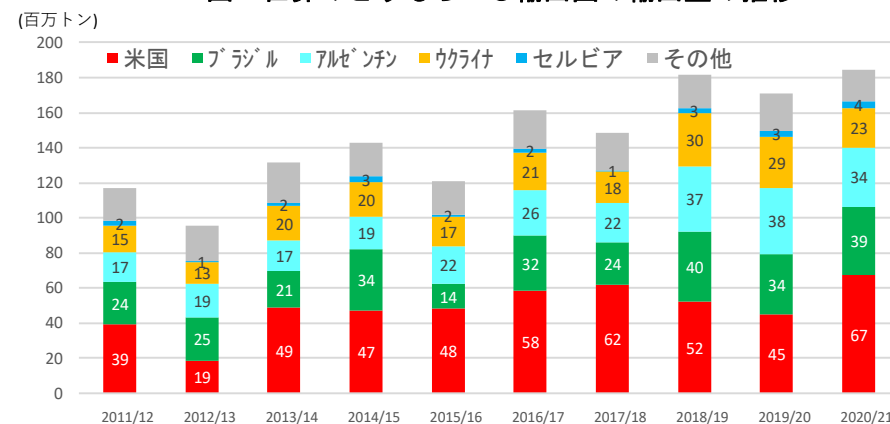
年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	101.0	102.0	110.0 (112.5)	-	7.8	
消費量	67.0	69.0	70.0 (73.8)	-	1.4	
うち飼料用	57.0	59.0	60.0 (54.5)	-	1.7	
輸出量	39.7	34.0	39.0 (38.0)	-	14.7	
輸入量	1.7	1.2	1.5 (0.8)	-	25.0	
期末在庫率	5.3	5.5	8.0 (8.2)	-	45.5	
期末在庫率	5.0%	5.3%	7.3% (7.3%)	-	2.0	

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.50 (19.70)	-	5.4
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.64 (5.71)	-	2.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC 「Grain Market Report」(29 October 2020)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2020.11.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%減の50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所(2020.11.26)によれば、10月の長引く乾燥天候により作付けが遅れ、10月以降非常に遅いペースで進展しており、作付進捗率は31.9%と、過去の平均(約60%)に比べ大幅に遅れている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より10.5%減の34.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1～9月の輸出量は32.0百万トンで、前年同期より13%増。内訳は、1位がベトナム7.0百万トン、2位がエジプト3.5百万トン、3位がアルジェリア2.8百万トン。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げた。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	51.0	50.0 (54.3)	-	▲ 2.0
消費量	13.8	13.5	15.0 (21.3)	-	11.1
うち飼料用	9.7	9.5	11.0 (16.7)	-	15.8
輸 出 量	37.2	38.0	34.0 (32.5)	-	▲ 10.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	1.9	2.9 (4.9)	-	54.0
期末在庫率	4.6%	3.6%	5.9% (9.1%)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.20 (7.40)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	8.36	8.10	8.06 (7.34)	-	▲ 0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report」(29 October 2020)

写真:北部サンタフェ州のとうもろこし

圃場の風景

(11月1日撮影)

10月末の降雨が生育を促し、作柄は良好



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.3%減の260.0百万トンの見込み。中国糧油情報センター（2020.11.4）によれば、10月の黒竜江省等東北部は日照時間が長く天候に恵まれ、収穫が大幅に進展した。11月上旬現在、東北部の春とうもろこし、河北省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が前月予測から3.0百万トン上方修正され、前年度より1.4%増の282.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国国家発展改革委員会は、2020年9月17日に2021年の低関税（最低1%）適用の輸入枠を2020年（7.2百万トン）と同量に据え置くと発表した。

USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、国内の家畜の飼養頭数と食肉生産量の増加により前月予測から6.0百万トン上方修正され、前年度より71.1%増の13.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2020年1～9月の輸入量は6.7百万トンで、前年同期の1.7倍。主にウクライナ産4.9百万トン（74%）が占めているが、ウクライナ産とうもろこしの高温乾燥による減産と旺盛な飼料用需要もあり、米国産が1.5百万トン（23%）とシェアを伸ばしている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報10月号」によると、東北部では生育前半の台風による倒伏の影響から農家の収穫コストが増大。10月の国内流通価格は、市場における流通量が少なく、とうもろこし加工業者は積極的に仕入れているが、農家は今後の値上がりを見込んで売却に消極的なことから、2,560元/トンと上昇し、高値で推移している。一方、外国産の価格上昇も続いていることから、内外価格差は縮小している。

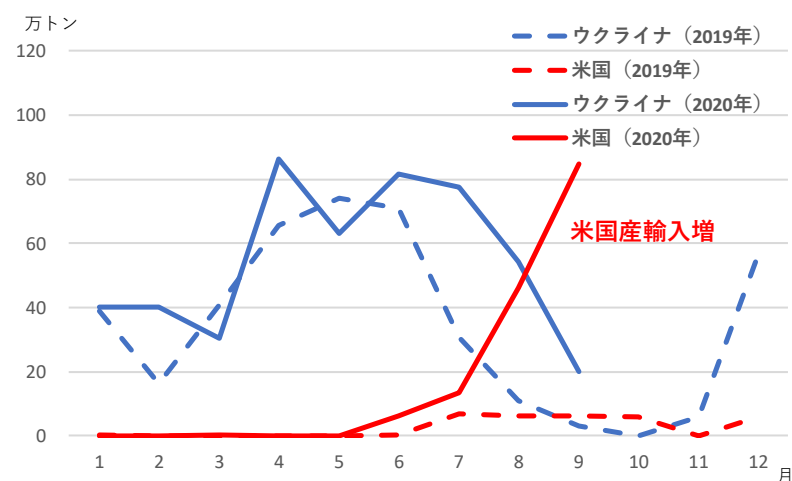
とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	257.2	260.8	260.0 (258.0)	-	▲ 0.3
消費量	274.0	278.0	282.0 (287.1)	3.0	1.4
うち飼料用	191.0	193.0	195.0 (182.0)	3.0	1.0
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0
輸入量	4.5	7.6	13.0 (7.0)	6.0	71.1
期末在庫量	210.2	200.5	191.5 (169.3)	2.6	▲ 4.5
期末在庫率	76.7%	72.1%	67.9% (59.0%)	0.2	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	42.00 (41.50)	-	1.7
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.19 (6.22)	-	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report」(29 October 2020)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海關統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分